(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3708289号
(P3708289)
(45)発行日　平成17年10月19日(2005.10.19)　(24)登録日　平成17年8月12日(2005.8.12)

(51)Int.Cl.[7]　F I
A45D 40/24　A45D 40/24　A
A45D 40/06　A45D 40/06　Z

請求項の数 6　(全 10 頁)

(21)出願番号　特願平9-134494
(22)出願日　平成9年5月9日(1997.5.9)
(65)公開番号　特開平10-304932
(43)公開日　平成10年11月17日(1998.11.17)
審査請求日　平成14年10月23日(2002.10.23)

(73)特許権者　000252090
鈴野化成株式会社
東京都新宿区下落合１丁目３番２２号
(74)代理人　100075513
弁理士　後藤　政喜
(74)代理人　100084537
弁理士　松田　嘉夫
(72)発明者　大庭　淳
東京都新宿区下落合１－３－２２
鈴野化成株式会社内

審査官　岩田　洋一

最終頁に続く

(54)【発明の名称】両軸繰出式棒状化粧材容器

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
容器の両端から棒状化粧材又は備品を繰り出す両軸繰出式の棒状化粧材繰出容器であって；
中間筒と、
中間筒の両端にそれぞれ回動自在に連結された、棒状化粧材等を繰り出す先端口を有する二本の先筒と、
各先筒を中間筒と相対回動することにより作動する繰出機構と、
先筒を覆うキャップと、　を備え；
キャップ内面と中間筒の軸方向前後部外面に同期係合部が設けられていることを特徴とする両軸繰出式棒状化粧材容器。
【請求項２】
さらに、上記キャップと上記先筒の間にも同期係合部が設けられていることを特徴とする請求項１記載の両軸繰出式棒状化粧材容器。
【請求項３】
上記同期係合部が、互いに係合するローレット（周方向連続縦溝）と縦リブとで構成されていることを特徴とする請求項１又は２記載の両軸繰出式棒状化粧材容器。
【請求項４】
上記中間筒前後部外面にキャップを嵌合係止する係止部が形成されており、上記キャップ内面に該係止部に対応する係止部が形成されていることを特徴とする請求項１～３いずれ

か１項記載の両軸繰出式棒状化粧材容器。
【請求項５】
上記キャップが、上記容器の前後において共通であることを特徴とする請求項１～４いずれか１項記載の両軸繰出式棒状化粧材容器。
【請求項６】
上記先筒Ａ、Ｂがそれぞれカートリッジとなって上記中間筒に対して着脱自在であることを特徴とする請求項１～５いずれか１項記載の両軸繰出式棒状材容器。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、棒状化粧材（アイライナーやアイブロウ、アイシャドウ、口紅等）を容器の両端から繰り出し・引き込みできる容器に関する。特には、キャップを持って繰り出し操作を行うことができ、操作性に優れる両軸繰出式棒状化粧材容器に関する。なお、本発明は化粧材を主に念頭においたものではあるが、その他の棒状材（糊、鉛筆等）の繰出容器にも適用できる。
【０００２】
【従来の技術】
図５は、実公昭６３－２９４５４号に開示された棒状化粧材繰出容器の断面図である。この棒状化粧材繰出容器の詳しい説明は省略するが、同容器を構成する部品は、キャップを除いても、第１芯筒９０６、第１摺動体９０９（チャック９１０一体）、中具９２７、コイル体９１３、軸筒９２６、軸杆９２４（チャック９２３一体）、ストッパー９１４、ワッシャー９１８、ネジ筒９０１、スプリング９１７、第２芯筒９１５の１１点にも達する。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
図５の棒状化粧材容器のように多数の部品を使用していたのでは、部品の製造コスト及び組み立てコストが増大し実現性が乏しくなる。
【０００４】
また同容器は、上下いずれかのキャップを外して、軸筒９２６と芯筒９０６又は９１５とを相対的に回動させることにより棒状化粧材を繰り出すのであるが、このとき、軸筒９２６の替りに外していない方のキャップを持って回すと、キャップと軸筒９２６とが回ってしまって、棒状化粧材を繰り出すことができない。実際には、このような事態にならないように、軸筒９２６を長くしておいて、繰り出し時には自然と軸筒９２６を持つように仕向けている。しかし、両軸繰出の場合、片一方の化粧材を使用中には、他方のキャップを外すことはないので、外していない方のキャップをホルダーとして確実に繰り出しに使用できるようにすることが望ましい。
【０００６】
本発明は、キャップを持って繰り出し操作を行うことができるため、操作性に優れる両軸繰出式棒状化粧材容器を提供することを目的とする。
【０００７】
【課題を解決するための手段】
上記課題を解決するため、本発明の棒状化粧材容器は、　容器の両端から棒状化粧材又は備品を繰り出す両軸繰出式の棒状化粧材繰出容器であって；　中間筒と、　中間筒の両端にそれぞれ回動自在に連結された、棒状化粧材等を繰り出す先端口を有する二本の先筒と、　各先筒を中間筒と相対回動することにより作動する繰出機構と、　先筒を覆うキャップと、　を備え；　キャップ内面と中間筒の軸方向前後部外面に同期係合部が設けられていることを特徴とする。
【０００８】
本発明の両軸繰出式棒状材容器においては、さらに、上記キャップと上記先筒の間にも同期係合部が設けられていることが好ましい。これによって、中間筒と先筒との間の回動を

も拘束して不意の棒状化粧材の突出を防ぐことができる。
【０００９】
また、上記同期係合部が、互いに係合するローレット（周方向連続縦溝）と縦リブとで構成されていることが好ましい。これによって、先筒及び中間筒とキャップとを嵌着する際に位置合せを必要とせず、芯材（化粧材）がどの位置でもワンタッチでキャップの着脱が行われる。なお、このローレットと縦リブの関係は、中間筒又は先筒側をローレットとしてキャップ側を縦リブとしてもその逆であってもよい。
【００１０】
【発明の実施の形態】
以下、図面を参照しつつ具体的に説明する。
図１は、本発明の１実施例に係る両軸繰出式棒状化粧材容器を示す側面断面図である。
図２は、図１の棒状化粧材容器のキャップ同期係合部の詳細を示す図である。（Ａ）は先筒及び中間筒の側面図、（Ｂ）はキャップの側面断面図である。
この容器は、図の上から下に向かって、キャップＡ１１、先筒Ａ１５、チャックＡ１７、押棒Ａ１９（チャックＡと一体物）、Ｏリング２０、２２、中間筒２１、先筒Ｂ２３、押棒Ｂ２４、チャックＢ２５（押棒Ｂと一体物）及びキャップＢ２９から構成されている。
【００１１】
上下のキャップ１１、２９は同じ形をしており、上下取り替えて装着することができる。あるいは、キャップが１個だけで、使用しない方の先筒に装着しておいてもよい。キャップを共通化することにより、キャップの選択が不要になるとともに、金型費等の製造コストを低減できる。
【００１２】
キャップ１１、２９は、有頂筒状をしており（頂部４１、９５）、装着状態において先筒１５、２３の先端口４３、９３及び側面を覆っている。キャップ１１、２９の根元部は、中間筒２１外面に嵌合している。キャップ１１、２９の根元部内面には、同期係合縦溝５１、７８が形成されている。同溝の手前側には、嵌合凹凸５７（図２における環状凸部５７ａ及び環状凹部５７ｂ）、７１が形成されている。この縦溝５１は、図２に示すように、周方向に連続的に多数形成されている。縦溝５１、７８は、先筒１５、２３外面の縦リブ５３、７９及び、中間筒外面前後端部の縦リブ５５、７５と係合して、前のキャップ１１と先筒１５及び中間筒２１、後のキャップ２９と先筒２３及び中間筒２１とを回り止めする。なお、各縦溝が連続的に多数形成されているため、また各縦リブの先が尖っているため、特にキャップを位置合わせしなくても、縦溝と縦リブとを合わせる（係合させる）ことができる。
【００１３】
このように、中間筒及び先筒の両者にキャップとの同期係合が設けられているため、キャップの装着状態において、中間筒と先筒とがキャップを介して同期係合するので、不意に両者が相対的に回るようなことがなく、化粧材が不意に繰り出されるようなことがない。なお、このような特性は、両軸繰出式の容器に限らず、片端繰出式の容器においても有用な特性である。
【００１４】
図２に示されているように、キャップ１１の基部内面の環状凹部５７ｂは、中間筒前後外面の環状凸部５７ａと嵌合して、キャップ１１を中間筒２１に係止する。
【００１５】
先筒１５、２３は、チャック１７、２５の摺動する内孔４５、９１及び棒状化粧材１３、２７の繰り出し・引き込みされる先端口４３、９３を有する。先筒の内孔４５、９１には、チャック１７、２５（及び押棒１９、２４）との同期係合縦溝４６、８９が切られている。したがって、チャック１７、２５及び棒状化粧材１３、２７は、先筒１５、２３内をまっすぐ進退する。
【００１６】
先筒１５、２３の根元部外面には前述の同期係合縦リブ５３、７９が形成されている。先

筒１５、２３の根元部５８、６９は、中間筒２１の端部外面に嵌合されて保持されている。同根元部５８、６９の内面と、中間筒２１の端部外面には、環状嵌合凹凸５６、７３が形成されており、先筒１５、２３と中間筒２１とを回動自在に連結している。

【００１７】

チャック１７、２５は、押棒１９、２４と一体に成形されたものである。チャック１７、２５は、その凹部４７、８７で棒状化粧材１３、２７の尾部を保持する。チャック１７、２５の外面には突起４８、８１が突設されている。この突起４８、８１は、先筒１５、２３内孔４５、９１の同期係合縦溝４６、８９と同期係合する。

【００１８】

押棒は、前後２本（押棒Ａ１９、押棒Ｂ２４）に分割されており、前後の棒状化粧材を別々に繰り出すことができる。また、押棒１９、２４の基部には、中間筒２１のラセン溝６２、７４と螺合するオネジ状突起６４、６８が形成されている。

【００１９】

中間筒２１は、中段部が太く、両端部が細い円筒状のものである。中間筒２１の端部外周には環状嵌合凹凸５６、７３が形成されており、上述のように両先筒の根元部５８、６９が嵌合されている。中間筒２１の中央部外面には、上述の同期係合縦リブ５５、７５及び嵌合凹凸５７、７１が形成されており、キャップ１１、２９が回動不能に係止される。中間筒２１の中段部６７は、キャップ１１、２９の外径と同径であり、容器の外面に表われている。中間筒２１内径にストローク分の長いラセン溝６２、７４が形成されている。これらのラセン溝６２、７４には、押棒１９、２４の突起６４、６８が螺合する。

【００２０】

Ｏリング２０、２２は、中間筒両端部外面の溝に装着されており、先筒１５、２３と中間筒２１との間の摺動に一定の抵抗を与える。この摺動抵抗により、容器の繰り出し・引き込み時にガタつかず、容器の高級感を増す。なお、Ｏリング２０、２２の摺動抵抗に打ち勝って繰り出すために、キャップ１１、２９と中間筒２１間に同期係合部が設けられているとも言える。このＯリングは特に無くてもよいが、繰り出し速度を速くしたいためメネジのピッチを大きくした場合、芯先からの圧力によって芯チャックが後方に下がってしまう（ＣＵＰ ＤＯＷＮ）場合は必須な部材となる。

【００２１】

図１の容器の操作について説明する。

まず、どちらかのキャップ１１又は２９を外し（以後の話は、キャップＡ１１を外して棒状化粧材Ａ１３を繰り出す場合を考える）、先筒１５の外面を指でつまんで、外さなかった方のキャップＢ２９を同じく指でつまんで回す。すると、キャップＢ２９と中間筒２１とは同期係合しているので中間筒２１と先筒Ａ１５とが相対的に回動する。そして、押棒１９は先筒Ａ１５と同期係合し、中間筒２１と螺合しているので、ネジ機構により繰り出される。後側の棒状化粧材２７Ｂを繰り出す場合は、上述の逆である。なお、容器１にキャップ１１、２９のうちのいずれか一方のみを設けておき、繰り出したい方の反対側に１個のキャップを付け替えながら使用することもできる。

なお、図１の棒状材容器においては、押棒のストローク限は、チャック１７、２５が先筒１５、２３内孔の段部４４、９４に当接することにより定まる。

【００２２】

図３は、本発明の他の１実施例に係るカートリッジ式両軸繰出式棒状材容器を示す側面断面図である。

同図において、図１の符号に１００を足した符号は、以下に特記するものを除いて同様の部品・部位を示す。

この容器１０１の容器本体１０５は１本の中間筒からなる。この容器本体１０５内に両側からカートリッジ１０３及び１０３′が挿入されて保持される。

【００２３】

カートリッジ１０３は、先筒１１５、チャック１１７付き押棒１１９、及び、螺合筒１１８からなる。先筒１１５は、その内孔１４５の縦溝１４６にチャック１１７外面の突起１

４８が係合して摺動するので、押棒１１９と同期係合する。螺合筒１１８は、先筒１１５と回動自在に連結されている。螺合筒１１８の先端部内周にはメネジ状突起１５０が設けられており、このメネジ状突起１５０は押棒１１９外面のオネジ１５２と螺合している。螺合筒１１８の尾端部内面には同期係合溝１６４が形成されている。

【００２４】

容器本体１０５の内部の中段部（奥）には同期係合片１６０が軸方向に突設されている。同期係合片１６０の周囲には、ローレット状の同期係合リブ１６２が形成されている。このリブ１６２は、螺合筒１１８の尾端部内面の同期係合溝１６４と係合して、容器本体１０５と螺合筒１１８とが同期係合する。この状態で、容器本体１０５あるいは後ろ側のキャップ１１１′と先筒１１５とを相対的に回すと、容器本体１０５と同期係合する螺合筒１１８と、先筒１１５と同期係合する押棒１１９とが相対的に回動して棒状化粧材１１３が繰り出される。

【００２５】

図３の容器は、芯チャックの下方にオネジを配したことによりストローク分のメネジ筒を使用することがないため、細径のカートリッジとなる。

また、キャップは両方に配され、中間筒及び先筒両方にキャップとの同期係合部を有する。また、本実施例においては、二つのラセン溝と二つの押棒による繰出機構であるが、一つのラセン溝と一つの押棒による両軸繰出機構もある。その場合には、先筒と中間筒の両方に同期係合部があった場合には繰出不能になる。これは後述する。

【００２６】

図４は、一本の押棒３０３の両端に化粧材を保持する芯チャック３１７、３１７′を有し、中間筒３０５のメネジ３３３と押棒３０３外面の一群の突起３２２をオネジに見立てた螺合作用と、該一群の突起３２２を軸方向に用い、先筒３０１、３０１′との回転止に使用した、両軸繰出式棒状化粧材容器である。

本実施例では、アイブローやアイライナー、リップライナー等細径の化粧材の容器に用いられ、簡単な構造と、短軸で細い外径でできるので、今までと違った複雑な部品構成でないため、全ての面で優れている繰出機構である。

【００２７】

先筒Ａ３０１と中間筒３０５を回動することによって上記の繰出理論によって、化粧材は真直に繰り出される。その際、先筒Ａ３０１が回動すると先筒Ｂ３０１'も回動するため、先筒Ａと先筒Ｂを回動操作した場合は繰出不能となる。一本の押棒３０３の両端に芯チャック３１７、３１７'を配した両軸繰出式化粧材容器の大きな欠点は引込操作をする時に後方の化粧材を後に突出してしまうことである。一本の押棒３０３の１／２の所にメネジ部３３１があり、先筒Ａ３０１側の繰り出しには、押棒３０３の後方半分が使用され、先筒Ｂ３０１'側の繰り出しには押棒３０３の前方半分が使用されるため、引込操作において引込み過ぎると後方より化粧材が突出してしまうのである。この欠点を補うために１個のキャップ３０９を設けたのが図４である。やや長めのキャップ３０９を設けて多少後方よりの突出があっても手を汚さないようになっている。

【００２８】

キャップ３０９内の内側端面付近には中間筒３０５との嵌合、係着に用いる凹環状部３４２と中間筒３０５と同期に回動する同期係合部３４４が設けられていて、先筒を回動する時は、中間筒３０５とキャップ３０９は同期の回転をするようになっている。図４の場合は先筒とキャップの同期係合部を付けると繰り出し不能になってしまう。キャップを設けることにより先筒同士を持って誤操作することを防いでいる。

【００２９】

図４の両軸繰出式棒状材容器についてさらに詳しく説明する。

図４の両軸繰出式棒状材容器３００は、図の上から下に向かって、先筒Ａ３０１、押棒３０３（チャックＡ３１７及びチャックＢ３１７′一体物）、中間筒３０５、先筒Ｂ３０１′及びキャップ３０９の５部品で構成されている。

【００３０】

先筒Ａ３０１は、内孔３１１を有するパイプ状の部品である。上半分が肉厚のつまみ部３２０となっており、下半分が中間筒３０５への挿入部３２７となっている。内孔３１１内は、チャックＡ３１７が軸方向に摺動する。内孔３１１内には、軸方向に延びる同期係合溝３１３が切られており、この溝３１３内を、押棒３０３外面に突設されている一群の突起３２２が軸方向に摺動し、先筒Ａ３０１と押棒３０３とが同期係合（一般的には回動不能・軸方向摺動自在）する。なお、内孔３１１は、図示されてはいないが先端に近づくに従い細くなる。また、同期係合溝３１３は、先端口の手前で途切れている。したがって、チャックＡ３１７は、先端口の手前でそれ以上前進できなくなる。

【００３１】

先筒３０１の挿入部３２７は、上述のように、中間筒３０５の連結部３２６の内孔内に挿入される。両者の挿入部（連結部）には、環状の凹凸３２５が形成されており、両筒３０１と３０５を回動自在に連結する。なお、中間筒３０５の先端と先筒Ａ３０１の段部３２３との間は軽く接触するかわずかに隙間が開く程度である。図の下部に示されている先筒Ｂ３０１′は、先筒Ａ３０１と対称で同一形状・寸法である。図中、同じ数字にダッシュのついた符号で示す部品・部分は同じものである。

【００３２】

中間筒３０５は、全体として同径のパイプ状のものである。上下方向の中段部は、肉厚のメネジ部３３１となっており、メネジ３３３が形成されている。このメネジ３３３は、押棒３０３の一群の突起３２２と螺合する。

【００３３】

押棒３０３の外周には、軸方向に４列に、一定ピッチで多数の小判型突起３２２が突設されている。これらの突起３２２は、図の中段部においては、中間筒３０５内面のメネジ３３３と螺合している。そして、同部以外においては、先筒３０１、３０１′内孔の同期係合縦溝３１３に係合している（入り込んでいる）。つまり、同じ一群の突起３２２が、メネジ３３３と螺合するオネジの役割と、同期係合縦溝３１３と係合する縦リブの役割の双方を果しているのである。このような一群の突起３２２は、押棒３０３をプラスチック射出成形で作る場合、金型の加工が楽である。また、粗いピッチのネジの場合もアンダーカットとならず割り型で成形できる。

【００３４】

以上、何種類かの実施例について説明したが、本発明はこれらの実施例に見られる機構・構造に限定されるものではなく、棒状化粧材の種類・径に関係なく、例えば細径のアイブローやアイライナー、大径の口紅や固形白粉、形式（カートリッジ型、非カートリッジ型）、繰り出しリードの細いもの粗いもの、繰り出しの重いもの（Ｏリング装着品）から軽いものまで限定なく適用できる。

【００３５】

【発明の効果】

以上の説明から明らかなように、本発明によれば以下の効果を発揮する。

▲１▼　両軸繰出式棒状化粧材の場合、片一方の化粧材を使用している時は他方は使用しないため、使用していない方にはキャップがある。中間筒前後部とキャップ内面に同期係合部を設けることによって中間筒とキャップとを確実に同期の回転をさせ、繰出機構の如何に係らずキャップを持った状態での繰り出し操作を行うことができる。

▲２▼　また、中間筒前後部外面とキャップ内面に同期係合部を設けたことによって、先筒先端口とほぼ同寸の化粧材や、細径のアイブロー、アイライナー等の化粧材及びこれらを斜めにカットした化粧材等さまざまな形態の化粧材を用いることができる。

【００３６】

▲３▼　中間筒前後部外面に加えて先筒にもキャップとの同期係合部を設けることによって、キャップ嵌着時には、振動や落下によって先筒が回動して芯が突出することがなくなる。この利点は、特にピッチが粗い繰出容器において特に顕著である。また、従来の口紅容器のような化粧材保持皿のロックを考えなくてもよい。なお、この発明の態様は、片端繰出化粧材繰出容器にも有効である。

▲４▼　キャップと中間筒及び先筒との同期係合方法をローレットと縦リブとすることで、どの位置においてもワンタッチで着脱が可能となる。
▲５▼　図４の実施例においては、先筒同士が回転する構造のため、キャップをすることにより（キャップ内で使用していない先筒が支障なく回転するため）、操作を単純にしている。

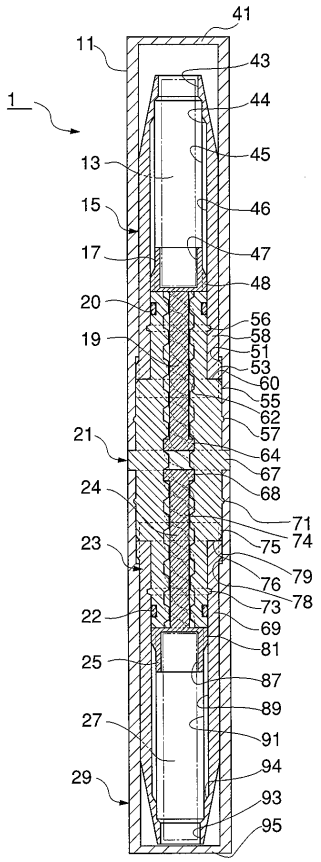
【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の１実施例に係る両軸繰出式棒状材容器を示す側面断面図である。
【図２】図１の棒状材容器のキャップ同期係合部の詳細を示す図である。（Ａ）は先筒及び中間筒の側面図、（Ｂ）はキャップの側面断面図である。
【図３】本発明の他の１実施例に係るカートリッジタイプの両軸繰出式棒状材容器を示す側面断面図である。
【図４】本発明の他の１実施例に係る両軸繰出式棒状材容器を示す側面断面図である。
【図５】実公昭６３－２９４５４号公報に開示されている両軸繰出式棒状材容器の側面断面図である。

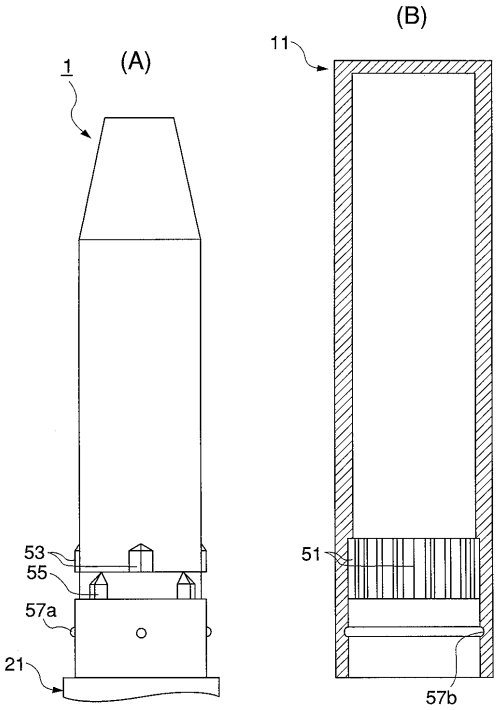
【符号の説明】

１　棒状化粧材容器	１１　キャップＡ
１３　棒状化粧材Ａ	１５　先筒Ａ
１７　チャックＡ	１９　押棒Ａ
２０、２２　Ｏリング	２１　中間筒
２３　先筒Ｂ	２４　押棒Ｂ
２５　チャックＢ	２７　棒状化粧材Ｂ
２９　キャップＢ	４１、９５　頂部
４３、９３　先端口	４４、９４　段部
４５、９１　内孔	４６、８９　同期係合縦溝
４７、８７　凹部	４８、８１　突起
５１、７８　同期係合縦溝	
５３、５５、７５、７９　同期係合縦リブ	
５６、７３　環状嵌合凹凸	５７、７１　嵌合凹凸
５８、６９　根元部	６０、７６　段部
６２、７４　ラセン溝	６４、６８　オネジ状突起
６７　中段部	
１１８　螺合筒	１１９　押棒
１５０　メネジ状突起	１５２　オネジ
１６０　同期係合片	１６２　同期係合リブ
１６４　同期係合溝	

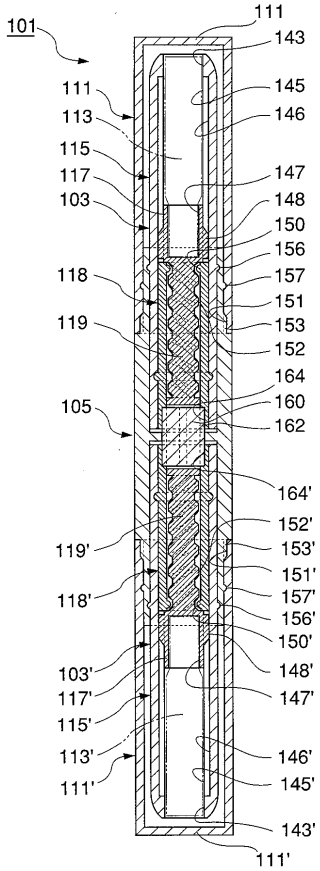
【図１】


41
11
43
1
44
13
45
15
46
17
47
48
20
56
19
58
51
53
60
55
62
57
21
64
67
24
68
71
23
75
74
79
76
78
73
22
69
81
25
87
89
27
91
94
29
93
95

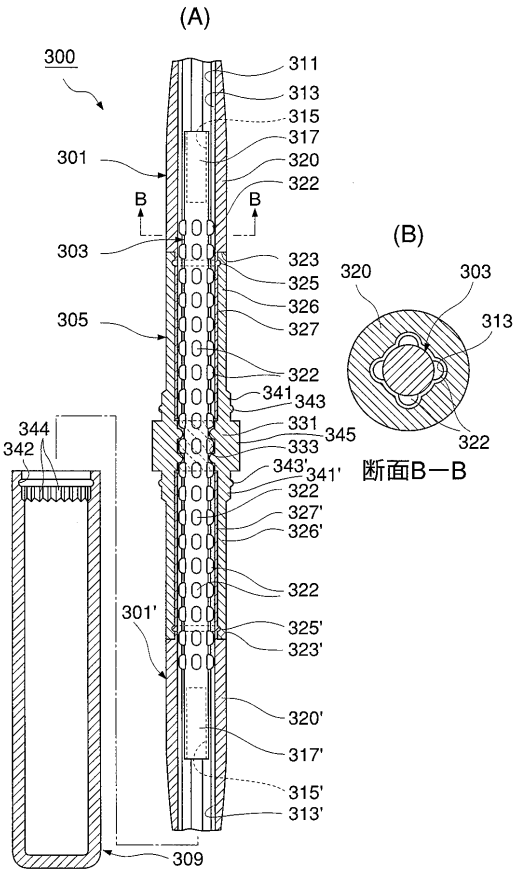
【図２】


(A)
(B)
1
11
53
55
57a
21
51
57b

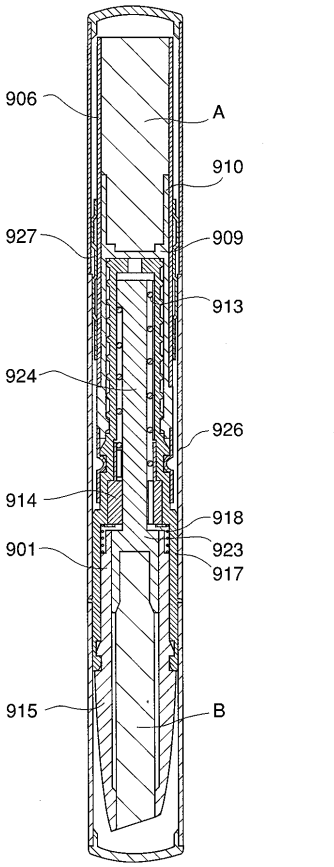
【図３】


101
111
143
111
145
113
146
115
147
117
148
103
150
156
118
157
151
119
153
152
164
105
160
162
164'
152'
119'
153'
151'
118'
157'
156'
150'
103'
148'
117'
147'
115'
113'
146'
111'
145'
143'
111'

【図４】


(A)
300
311
313
315
317
301
320
322
B
B
303
323
325
326
305
327
322
341
343
344
331
345
342
333
343'
341'
322
327'
326'
322
301'
325'
323'
320'
317'
315'
313'
309
(B)
320
303
313
322
断面B－B

【図５】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開平０３－０８１０２３（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５６－０４０７０７（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５５－１６６７７５（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６１－０５６９１４（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６３－１６９０２３（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
A45D 40/24
A45D 40/06